

# 僧見聞録

「忘れてないですよ」



県北支部 長秀院副住職  
渡辺 秀憲

昨年の十一月末日に、曹洞宗総合研究センター主催の傾聴活動のお手伝いとして、岩手県の沿岸部にお邪魔する機会がありました。東日本大震災以降、宗門は被災地での傾聴活動を継続しており、現地の青年僧侶と一緒に、寺院や保育園などでワークショップを開催しています。私はそのワークショップの補佐として活動に同行することになりました。

傾聴活動と聞いて身構えていたのですが、お世話になる寺院のご住職や保育園の職員さんの世間話は、とても穏やかなもの。その年の海産物の漁獲量や、最近の子どもたちの流行りなど。もともと深く深刻な話が出るかと思っていた私は、内心少しほっとした気持ちになったのを覚えています。

保育園でのワークショップは、ビーズブレスレット作り。園児の皆さんは、作ったブレスレットは持ち帰れると聞いて、ひたむきにビーズを並べて糸を通します。聞こえてくる子どもたちの声は「来年から小学校なんだ〜」などと無邪気そのものでした。お寺さんでのワークショップは匂い袋づくり。

ご年配が中心の檀信徒の方が、指定通りにお香を調合します。参加者の皆さんからは「生ガキはもう食べた?」「ホヤだけは食べて帰ってね」と、地元の特産品をたくさん教えてもらいました。現地に入る前、私はワークショップの狙いについて説明を受けていました。一緒に作業することで、被災者の方が悩みや不安を吐き出しやすくなること。しかし今回の訪問では、参加者の皆さんから震災の「し」の字も出てきません。これはいんだらうか?と内心首をひねっていました。そんな私の心を見透かしたかのように、傾聴活動に携わって長い宗侶の方が教えてくださいました。

「もしかすると、震災は岩手の人にとっても、ある程度整理のついたできごとなのかもしれない。でもこうして、被災地を継続して訪れることが大事なんです。『私たちは震災のこと、あなたのこと、忘れてないですよ』って伝えることが大事なんです」



能登半島地震をはじめ、昨今も多々災害が発生しています。その一つがたとえある程度復興したとしても、自分はその悲しい出来事を忘れてしまっていないだろうか。今までの自分を振り返させられるとともに、これからも被災地支援に携われるご縁があれば、「皆さんのことを想っています」と身をもって示していきたいと、思いを新たにできる機会でした。

## 編集後記

本年度より「精進」の編集を県北支部で担当させて頂くことになりました。二年間よろしくお願ひ致します。

九月十三日、郡山市内において傾聴研修会が開催されました。より充実した内容でお届けする為、次号での掲載とさせて頂きます。

この度、ご縁をいただき精進委員として活動することとなりました。

精進委員は初めての経験ですが、県青年会や各支部の活動等を分かりやすくしつかりとお伝え出来るよう尽力いたしますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

委員 中野 俊之  
委員 中野 孝海  
この度ご縁を頂戴し精進委員として機関誌の発行に携わらせていただくこととなりました。二年間全四回という限られた機会ではございますが、多くの方に読んでいただけたよう誠心誠意取り組んでいきたいと思っております。

前期に引き続きまして、県北支部の「精進」の編集委員及び、曹洞宗福島県青年会の編集委員となりました。

県全体での活動の様子を伝えていくと同時に県北支部での活動も「精進」を通して今後とも伝えて参ります。よろしくお願ひ致します。

委員 清水 清孝



## 精進

第116号

令和6年9月30日

【発行所】

〒961-8001

福島県西白河郡西郷村羽太字狸屋敷164  
大龍寺内

曹洞宗福島県青年会

TEL.0248-25-3507

【発行責任者】内藤 宏信

【編集責任者】中野 秀俊

曹福青の最新情報はこちらから



# 精進

曹洞宗福島県青年会会報  
第116号 2024.9.30

目次	1
会長挨拶	2
令和6年度定時総会報告	3
会長所信表明	4
令和5年度事業報告・収支決算書	5.6
執行部・出向者・新入会員紹介	
令和6年度事業計画・収支予算書	7.8
仏法興隆花まつり千僧法要レポート	9
全曹青50周年記念式典	10
全曹青災害復興支援活動 東北管区研修会	11
支部だより(県北・県中・県南)	12
支部だより(相双・いわき・会津)	13
能登半島地震・山形豪雨災害ボランティア	
令和6年能登半島地震募金箱設置	14
令和7年版「禅の暦」紹介	15
僧見聞録・編集後記	16





# 会長挨拶

## 会長 内藤宏信

東日本大震災が発生したのは、私がまだ修行を終えたばかりの時でした。

「今の自分に何ができるのだろうか」。未曾有の被害を目の当たりにして、僧侶としての自身の無力さに苦悩する日々を過ごしていた、そんな中で出会ったのが青年会活動です。

青年会の一員として参加した被災地での災害復興支援活動。

被災された方々と向き合い、お気持ちを受け止める中で、宗侶としての在り様を見出すことができました。まさに青年会活動が私の問いへの答えとなったのです。

この度、そんな思い入れ深い曹洞宗福島県青年会の会長の任を拝命いたしました。

会長に就任して早くも半年が経ちましたが、これまで会長を担ってきた先輩方が、いかに強い牽引力と決断力、そして実行力を持って青年会を導いておられたかを身をもって実感しております。諸先輩方が受け継いでこられたこの青年会を次の世代へと繋げるべく、志を受け継ぎ、同じ心持ちで努めてまいり所存です。

「青年会の活動は社会からの声に耳を傾け、その要請を実践する場である」

この言葉はかつて私がある先輩から教えていただいた言葉です。この言葉に青年会の本質があると信じて、私はこれまでの活動に邁進してきました。

元々、青年会は「大衆教化の接点を求めて結成された」という背景があります。私たち青年僧侶と大衆、あなたと私、私と世界、それぞれの歩みを分かち合い、共に前進していく姿こそ青年僧侶の姿であると確信しています。

だからこそ、会員の皆様には、ぜひ積極的に青年会活動に参加していただきたいと思っています。活動に意味があるのかないかは、行動の先で自分がどう捉えるかで如何様にも変えることができます。

青年会活動を通じて、自身の進むべき道、大切なご縁を見出すことができれば、これ以上の喜びはありません。大衆教化の接点を求め、共に学び、共に成長していきましょう。

来年度は、第五十回曹洞宗青年会東北地方集会在福島県を会場に開催されます。

社会に対して私たちの思いを伝え、大衆と共に歩む青年僧侶の姿を示す大事な機会。東北地区各曹青会と共に「東北はひとつ」を体現し、大会を円成させるべく精一杯務めてまいります。

最後になりますが、御寺院諸老師並びに歴代青年会会員の皆様、日頃からの温かいご支援、心より感謝申し上げます。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜り、一人でも多くの若い会員が青年会活動に参加しやすい環境づくりにも御助力いただきますと幸いです。

微力ではございますが、曹洞宗福島県青年会の発展のため、全力を尽くしてまいります。皆様のお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 令和六年度 定時総会報告

令和六年四月十六日（火）、会津若松市の恵倫寺様を会場に「令和六年度曹洞宗福島県青年会定時総会」が開催されました。

総会に先立ち、「寺院会計・青年会会計について」の研修会を開催し、寺院会計や「禅の暦」頒布活動など青年会会計に関わる留意点について当会顧問税理士である鈴木文弘氏にお話いただきました。

研修会後には会長である佐藤泰典師を導師に当青年会物故者供養法要を行い、報恩の誠を捧げさせて頂きました。

十五時より総会が行われました。副会長の村上徹信師の開会の辞で始まり、佐



藤会長の挨拶、宗務所長である玉木知顕老師より祝辞を頂きました。そして県中支部の佐藤真光師を議長に議事に移りました。

まず第一号議案で令和五年度事業報告並びに決算報告、そして周年事業の報告があり慎重審議が行われ承認されました。第二号議案にて曹洞宗福島県青年会会則改訂について佐藤会長より説明があり承認されました。第三号議案にて役員改選が行われ、新会長に内藤宏信師（県南）が選出され、副会長に秋山真宏師（県中）、寿上祐光師（会津）、事務局長に秋信隆師（県南）、庶務に野田晃平師（県

南）、丸山尚孝師（県南）、大平雄介師（県南）、会計に岩井義昌師（県南）、会計監査に島村哲哉師（相双）、黒金泰寛師（会津）、精進委員長に中野秀俊師（県北）、来年度カレンダー委員長に大柳匡弘師（県中）が新会長より指名され承認されました。続いて新会長に就任した内藤宏信師の挨拶の後に、第四号議案令和六年度事業計画案並びに予算案が事務局より上程され可決承認されました。



議事終了後には、本年度の総会を以って退会される七名が紹介され、代表で県中の高橋浩紀師よりお言葉を頂き、退会される七名に感謝と功労を称え記念品贈呈も行われ、新副会長の秋山真宏師の開会の辞にて総会は無事終了となりました。

（事務局長 秋 信隆 記）

# 会長所信表明 令和六年度曹洞宗福島県青年会定時総会にて



この度、曹洞宗福島県青年会の会長を拝命いたしました内藤宏信と申します。まずはこの二年間、曹洞宗福島県青年会を導

いてくださった佐藤前会長にお礼申し上げます。二年間、本当にありがたうございました。コロナが寛解しつつある中で、新しい青年会の形を築き上げ、決して内向きになることなく、大衆教化の接点を求めて外へと向かっていくその覚悟と行動力によって、この青年会を社会に知ってもらったことができた功績は尊く、会員一人一人がそれを自覚し、誇りに思える会になっていったと確信しています。佐藤前会長の行動力と勇気を後任である私もしっかりと引き継いで、曹洞宗福島県青年会を未来へ継承していきたくと思っています。私が、この二年という短い任期の中で力を入れて取り組んでいきたいことが大きく二点あります。

東日本大震災の際、多くの青年僧が、全国曹洞宗青年会災害復興支援部や復興支援室分室を通じて、行茶活動による傾聴ボランティアを行ってまいりました。安易に言葉にすることの出来ない被災地の惨状の中でも、多くの先輩が命の声に耳を澄まし、被災された方々と向き合おうとしている姿は、道元禅師の教えそのものであり、宗侶としてあるべき姿だったと思います。私自身、ボランティアに参加し、被災された方のお話を受け止める中で、自分のありようを見つめることができました。日本の現状を見てみると、貧困や差別、自死など、苦しみや悲しみの中で多くの人たちが生きています。また、本年元日には能登半島を震源とする大きな地震が発生しました。大切な方を亡くした悲しみを抱え、思うように進まない復興に胸を痛めている方々が数多くおられます。安穩には程遠い状況です。そんな現状で、少しでも力になりたい、自分のできることはないだろうか、そう思っている青年僧がこれには多いと信じています。また、私を含め震災の時にこの活動を行っていた卒業間近の青年僧のみなさん。傾聴活動のノウハウとその想いを未来に継承するために、どうかいま一度、力を貸してください。現状をつぶさに見つめ、誰ひとり取り残されることなく平穏な日々を多くの方が取り戻せるために心を寄せてためらうことなく行動

していく。傾聴研修会をそんな時間にしていきましょう。そして二つ目が「曹洞宗青年会東北地方集會福島大会の準備を行い、大会を成功に導くこと」です。来年はこの福島を会場に第五十回曹洞宗青年会東北地方集會が開催される予定です。五十回目という記念すべき節目の会を福島で開催できることも、何かの縁だと感じています。この東北地方集會は、社会に対して東北の青年僧の思いを伝える貴重な機会です。世界の至るところで争いがあり、災害や貧困、差別で苦しんでいる方々が多く存在する今こそ、大会を通じて、改めて今を生きている人たちが共に命の根源に向き合い、互いの命を生かし合うことの大切さを伝えていけるのではないかと思います。色々述べてまいりましたが、私がこの二年間の活動で中心に置きたいのは「人々に寄り添い、思いを馳せ、行動に起こす」ということです。私は、生きとし生けるものに慈しみの心を向け続けるといいますが、道元禅師の説かれた坐禅のあり様なのではないかと考えております。宗教者として、「自分たちにできることは何か」を問い、人の尊さ、命の尊さに向き合い、その想いを広げていく。私たちがそんな世界の中心点になっていくような活動していきましょう。会長就任にあたり、歴史ある曹洞宗福島県青年会を未来へと継承する責任を自らに課し、強い意志を持って臨んでまいります。至らぬ点多いかと思いますが、二年間、お力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

## 令和5年度 事業報告

日程	事業名	参加人数
4月6日	会計監査：南東北総合卸センター	5名
4月11日	曹洞宗福島県青年会定時総会・第1回カレンダー委員会：郡山ビューホテル	51名
5月9日	60周年記念頒布物部会：猪苗代町長照寺	8名
5月10日	曹洞宗福島県宗務所布教委員会：福島市円通寺ワットホール ※会長が委員として出席	1名
5月12日	60周年事業会場運営部会：オンライン	10名
5月16日	60周年記念植樹説明会：南東北総合卸センター	6名
5月17～19日	全国曹洞宗青年会定期評議員会・中央研修会・定期総会：曹洞宗檀信徒会館	2名
5月23日	東北地協定例幹事会：岩手県花巻市	4名
5月24日	60周年事業委員会：會津藩校日新館	14名
5月26日	第2回カレンダー委員会：南東北総合卸センター	17名
5月30日～6月6日	60周年記念植樹～インダス源流緑化プロジェクト～：北インド、ラダック地方	7名
6月15日	60周年事業部会長会議：会津若松市恵倫寺	7名
6月16日	第3回カレンダー委員会・第2回役員会：南東北総合卸センター	25名
7月10日	第4回カレンダー委員会：南東北総合卸センター	18名
//	60周年事業制作物広報部会：川俣町興隆寺	6名
7月19日	60周年事業会場運営部会：會津藩校日新館	8名
8月23日	60周年事業委員会・第4回役員会：南東北総合卸センター	20名
8月31日	東北地協臨時常任幹事会：青森県青森市	2名
9月14日	いわき市水害ボランティア活動	9名
9月19日	60周年事業委員会：猪苗代町長照寺	18名
10月2日	60周年事業委員会：猪苗代町長照寺	16名
10月4日	いわき市水害ボランティア活動	9名
10月10日	60周年事業委員会：會津藩校日新館	18名
10月15日	60周年記念事業・ふくしま禅フェス 楽しい寺子屋：會津藩校日新館	59名
10月20日	東北地協常任幹事会：青森市ル・グランクール	2名
//	第48回東北地方集會青森大会「若き仏たちへ」：青森市ル・グランクール	10名
11月11日	曹洞宗福島県宗務所教化資料作成委員会：福島市長楽寺禅堂 ※会長が委員として出席	1名
11月29日	全国曹洞宗青年会臨時評議員会・50周年記念法要：曹洞宗檀信徒会館	2名
令和6年		
2月7～9日	能登半島地震炊き出しボランティア活動：石川県輪島市	7名
2月28日	東北地協臨時常任幹事会：岩手県北上市	2名
3月10日	全国曹洞宗青年会東日本大震災慰霊復興祈願法要：伊達市成林寺	6名
3月11日	東日本大震災相双地区慰霊碑供養	36名
3月14日	第7回役員会・令和6年版カレンダー委員会：郡山市華の湯	25名
3月22日	曹洞宗福島県宗務所教化資料作成委員会：福島市長楽寺禅堂 ※会長が委員として出席	1名
3月28日	第1回令和7年版カレンダー委員会：いわき市医王寺	20名

※オンライン執行部会、役員会を適宜開催（5/11、7/6、7/29、12/13、1/19、1/27、2/15の計7回）

# 執行部・出向者・新入会員紹介

## 執行部一覧

役職名	寺院名	氏名
会長	大龍寺	内藤 宏信
副会長	長泉寺	秋山 真宏
副会長	善龍寺	寿上 祐光
事務局長	長祿寺	秋 信隆
会計	賢瑞院	岩井 義昌
庶務	長泉寺	野田 晃平
庶務	常林寺	丸山 尚孝
庶務	光度寺	大平 雄介
カレンダー委員長	医王寺	村上 徹信
精進委員長	正福寺	中野 秀俊

## 全曹青出向者一覧

役職名	寺院名	氏名
総合企画委員	金源寺	阿部 泰宗
教化委員	常圓寺	阿部 木童
災害復興支援部アドバイザー	茂林寺	佐藤 正乗
全日仏青特別委員	医王寺	村上 徹信

## 新入会員一覧

支部名	寺院名	氏名
県北	東禅寺	佐藤 正悟
県南	龍台寺	渡邊 乗意
いわき	海嶽寺	長峰 訓之
いわき	清光院	福羽 法友
会津	西隆寺	遠藤 孝弘

# 令和6年度事業計画

## 令和6年

4月3日	会計監査：郡山市 南東北総合卸センター会議室
4月16日	定時総会：会津若松市 恵倫寺
4月26日	全日本仏教青年会 仏法興隆花まつり千僧法要：奈良県 東大寺
5月23日	全国曹洞宗青年会 定期評議員会：曹洞宗檀信徒会館 全国曹洞宗青年会 創立50周年記念式典：曹洞宗檀信徒会館 全国曹洞宗青年会 創立50周年祝賀会：第一ホテル東京
5月24日	全国曹洞宗青年会 創立50周年記念講演会：曹洞宗檀信徒会館 全国曹洞宗青年会 定期総会：曹洞宗檀信徒会館
6月4日	東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 定例幹事会：岩手県盛岡市 ホテルニューカーリーナ
7月8日	全国曹洞宗青年会 創立50周年記念事業 東北管区災害復興支援活動研修会：宮城県仙台市 見松寺
7月～8月	各支部「禅のつどい」(各支部)
8月	「令和7年 禅の暦」案内状発送開始
11月19日	第49回曹洞宗青年会東北地方集会 山形大会：メトロポリタン山形
11月21日	全国曹洞宗青年会 臨時評議員会・臨時総会：大本山永平寺 全国曹洞宗青年会 創立50周年記念事業 大本山永平寺報恩拜登
12月	各支部「歳末助け合い托鉢」(各支部)

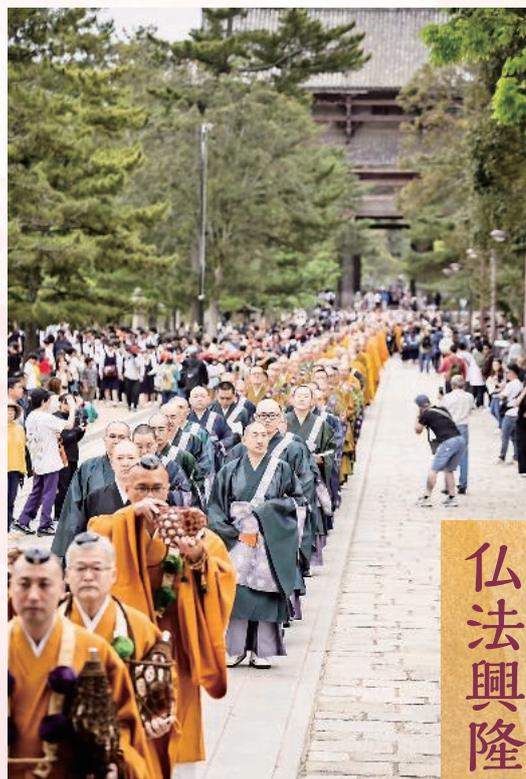
## 令和7年

3月11日	相双地区 東日本大震災慰霊碑供養
3月下旬	カレンダー委員会報告会

- ※ 4月～通年 (必要に応じて開催)
- ・役員会 (県執行部、各支部長)
  - ・令和7年版カレンダー委員会 (いわき支部担当)
  - ・令和6年度精進委員会 (県北支部担当)
  - ・災害復興支援活動

## 仏法興隆花まつり千僧法要

参加レポート



大仏殿到着後は、殿内の壇上に拝登させていただき、全日本仏教青年会理事長導師のもと大般若転読など超宗派の特色を様々に取り入れた法要が行われました。コロナ禍の中止や規模縮小を経て久しぶりに一般参拝

会会長を導師に花まつり法要が勤修されました。アショカピラー宝塔は、第一回開催時に建立された記念宝塔で、宝塔下には法要参加者の名簿と全国から寄せられたメッセージを封印したタイム



カプセルが埋まっています。二〇三八年の千僧法要五十周年の際に、掘り起こされることになっています。

去る令和六年四月二十六日、全日本仏教青年会主催「仏法興隆花まつり千僧法要」和の集い、平和の祈り―が奈良県東大寺において開催され、当会から会長の私と県北支部の阿部木童師の二名が参加しました。木童師には全国曹洞宗青年会の法式委員として法要の準備と運営に当たっていただきました。

者の受け入れも再開され、僧俗を超えてともに仏法興隆と世界平和、さらには各地災害の復興祈願の祈りを捧げさせていただきました。法要では東大寺学園幼稚園の年長さんによる歌奉納もあり、可愛らしい声が大仏殿に響き渡り多くの人が耳を傾けていました。

十二時四十五分、金峯山青年僧の会が吹き鳴らす法螺貝の音を合図に東大寺総合文化センターより青年僧侶らによる行列が進発し、多くの参拝者で賑わう大仏殿までの参道を、宗派を超えて全国から参集した三百五十名余の青年僧侶の皆様とともに歩かせていただきました。

法要後には東大寺の境内内に設置されているアショカピラー宝塔に移動し、奈良市近郊の寺院僧侶有志の会である南都二六



千僧法要は、全曹青第七期会長で全日本仏教青年会第六代理事長を兼任されていた神野哲州老師（名古屋市地藏寺住職・宗議会議員）の発願により昭和六十三年に最初の一步を踏み出しました。全国曹洞宗青年会から選出された理事長ということもあったのでしよう。法要には二千三百名の曹洞宗梅花講員が集まったとも伺っています。曹洞宗との関わりは深い法要ですので、今後は若い会員の皆様にも是非参加していただきたいと願っています。

（会長 内藤宏信 記）

## 全曹青災害復興支援活動 東北管区研修会

創立50周年を迎えた全国曹洞宗青年会は、記念事業の1つとして災害復興支援活動全国研修会を全国9つの管区で開催しています。この研修会は、災害復興支援活動に参加する方の不安を払拭し、また自身が被災した際の心構えにもなることを目的としています。東北管区では7月8日、宮城県仙台市、見松寺様を会場に開催され、東北6県の青年僧、寺族約70名が参加、当会からは会員5名が参加致しました。研修会では、青年僧が行う機会の多い炊き出し研修と、支援に於いて必要な道具や心構え等の講義が行われました。炊き出し研修では、全曹青が全国15ヶ所に配備しているストックヤードを活用した炊き出しが実演されました。ストックヤードには水、非常食、炊き出しステーション（ガスコンロ、炊飯釜、鍋等のセット、約100人分のご飯と汁物の調理が可能）、非常用トイレ、発電機等を備蓄し、福島県では、伊達市成林寺様に配備されています。アルファ米のご飯、しじみ汁、豚肉の生姜焼き、青菜のおひたし、人参の炒め物が手際よく調理され、全員で盛り付け、片付けを行い実食となりました。

午後は「NPO法人災害救援レスキューアシスト」代表・中島武志氏を講師に災害復興支援心得講義が行われました。炊き出しを行う際の注意点や自分が被災した際の心構えを、経験を元に講演頂きました。中島氏は、災害支援のポイントとして、被災者と話をすることを挙げ、話を聞くことでその人の心が軽くなり、支援の輪が広がる事もある。それがお坊さんであれば尚更聞いてもらいたいと思うと語り、講義を締めくくりました。



### 研修会参加レポート

7月8日、宮城県仙台市見松寺様にて開催された全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業「災害復興支援活動 東北管区研修会」に参加しました。

研修会では、アルファ米の炊き方や被災地での調理の実演をはじめ、講師の先生方の経験を踏まえた講義やパネルディスカッションが行われました。

一番印象的だったことは、本年1月1日に発生した能登半島地震でのボランティア活動の中で「水は供給されたが、水を運ぶための容器が足りなくなった」というお話でした。他にも、日常生活では感じる事のない不便さを拝聴することができ、充実した研修でした。

災害を目前にした時、焦らずに行動するためには事前準備や心づもりが必要だと思います。この度の研修会では、ボランティア活動だけではなく、自分が被災した時にどう行動するかを考えさせられました。そして、今後、今回学んだことを基に私自身も災害ボランティア活動に参加してみようと思いました。

(県北支部 久田明幢 記)



全国曹洞宗青年会は昭和五十年の発会より今期（第二十五期）において、創立五十周年を迎えました。そして、来る令和六年五月二十三日（木）～二十四日（金）の二日間にわたり、全曹青五十周年記念式典が宗務庁内曹洞宗檀信徒会館において開催されました。

記念式典は佛祖諷経、会員故者慰霊諷経、本年元日に発災した能登半島地震の慰霊法要が勤められ、両大本山、宗務庁よりご祝辞を頂きました。その後、式は記念シンポジウム「未来への結集」へ移り、はじめに五十周年記念事業の紹介がされました。事業内容は、両大本山報恩拝登、禅のつどいとして「自然に親しむZEN ASOBI」、禅喫茶「RYUREI」、オンライン坐禅会「穏坐」の三つの事業、記念誌「LOG」が紹介されました。

また、災害復興支援活動全国研修会は全国九管区において自然災害被災者への支援活動への心構えの講義と炊き出し研修を行う事業

で、東日本大震災や昨今の豪雨被害を目の当たりにしている自らにとってもその重要性を感じました。次に、第一期から第二十四期までの歴代会長様のご登壇され、各期の活動内容が紹介されました。

翌日は、記念講演として戦場カメラマンの渡部陽一氏をお迎えし、世界各地の戦場のリアルをお伝えいただきました。人間の宗教観、死生観、また僧侶としてこの事実とどう向き合うべきかを考えさせられました。

今回、式典に参加させていたただいたことで、これまで各期の青年会員のみなさまがそれぞれの時代の变化に合わせて何がで



きるかという試行錯誤の歴史を感じました。特に前期（二十四期）は、コロナ禍という状況にあつてオンラインでの活動が主となり、実地での活動が滞りました。しかし、その間にしか培えなかった経験は今後の活動の幅を広げる糧となつています。自分自身も全曹青出向者としての今の活動が、地元とその未来へとつながる形として生かしていけるように精進して参ります。

(県北支部 阿部木童 記)



## 全曹青五十周年記念式典〈レポート〉

# 支部だより

## 県北

令和六年度県北青年会の総会が五月二十八日から二十九日にかけて山形県南陽市の赤湯温泉「上杉の御湯 御殿守」にて行われました。宿泊を伴っての総会は、新型コロナウイルスの影響でしばらくの間行われませんでした。今年も久しぶりに県外に足を延ばしての開催となりました。

米沢市の林泉寺様を参拝し、道の駅米沢で昼食をとり、総会会場に向かいました。定例総会に先立ちまして、山形県立米沢女子短期大学教授の原淳一郎氏を講師にお迎えして、「米沢藩の特異な宗教環境と曹洞宗の一事例」と題して講習会が開かれました。歴代の米沢藩主、特に上杉氏と領内にあった寺院との関わりについてのお話でありましたが、他の藩と異なる珍しい点がいくつもあったと言われており、米沢藩と寺院との独特な関わりがあった事を知りました。

その後、定例総会が開かれました。今まで会長でありました高山光正師から、吉岡統親師へ交代し、吉岡新会長の下、会員一同さらに盛り立てて参ります。

また、来年令和七年は県北青年会が誕生して五十年となる節目の年に当たります。そこで、今年から五十周年の記念事業に向けて、様々な準備をして参ります。

(県北支部 清水清孝 記)



## 相双

五月二十一日より一泊二日の日程で支部研修を実施しました。初日は東林寺様に集合して、乗り合わせて出発した後、山形県鶴岡市にある羽黒山の国宝の五重塔、出羽三山神社を参拝しました。歴史や由緒ある趣きを肌で感じる事が出来ました。午後は、令和六年版カレンダー撮影とデザインを依頼した原義典師の御自坊の庄内町にある泰宗寺様を参拝しました。御自身の晋山結制に合わせて手縫いされた袈裟と緒子を見せていただきました。その後、同じくカレンダー撮影等を担当されたルイス隆祥師が経営する酒田市にあるブラジル料理店にて懇親会を行いました。カレンダー撮影時の思い出話や今後の展望等の話題で盛り上がりました。二日目は、酒田市の山居倉庫を見学した後、天童市の若松寺様を参拝しました。開山千三百年の縁結び観音として有名で、国指定重要文化財の観音堂、最上三十三観音一番若松観音を拝観させていただきました。



七月二十四日、南相馬市岩屋寺様主催の禅の集いが開催され、当会員が随喜しました。

地元の未就学児から大人までの十名程が参加して、般若心経を誦経した後、坐禅や本堂周辺の作業を行いました。境内で流しそうめんやスイカ割りも行い、お寺での体験を通して、夏休みの思い出をつくる事が出来たことと思います。

(相双支部 島村哲哉 記)



## 県中



県中青年会では、六月二十六日に、大慈寺様にて定例総会を行いました。今春より、役員改選となり、新支部長に安倍元宏師、副会長に佐藤真光師が選出されました。庶務は西川秀哉師、会計は高柴清二師、カレンダー委員は大柳匡弘師と廣瀬秀保師に引き続き務めていただきます。

また、七月二十二日に本宮市の石雲寺様、二十五日に郡山市の長泉寺様にてそれぞれ禅のついでを開催しました。石雲寺では坐禅に関する動画を視聴した後、開講式、坐禅指導、宿題交流、クワガタ幼虫飼育講座などを行いました。クワガタ幼虫飼育講座ではまず座学を行い、その後各自飼育用の瓶を作成し、それに配布された幼虫を移し替えました。非常に本格的な講座で、参加した子供たちは熱心に取り組んでいました。

長泉寺では坐禅指導に加えて、薬石でカレーを食べ、プレゼント交換や花火を行いました。こちらも参加者皆坐禅を静かに行い、その後の企画は大盛況のうちに終えることが出来ました。

(県中支部 木町元風 記)



## いわき

いわき支部では五月一日に支部の定例総会を開催、新旧支部長などの役員交代や前年度決算、新年度予算や行事予定が承認され、新年度を開始しました。七月二十六日、同三十一日、八月一日には本年も緑蔭禅のついでを医王寺、龍雲寺にて開催、医王寺開催は約三十名、龍雲寺開催は約五十名の子どもたちが参加しました。子どもたちは読経、坐禅、ヨガ、写経、苔玉作りなど、普段の生活では体験できないようなたくさんのお楽しみがありました。



なお、いわき支部が担当した令和七年の禅の暦カレンダー「詠詠歌のころ」の購入予約が始まっております。御詠歌四首、御和讃二首の合わせて六首を、お募りや詠詠法要の写真に合わせて二月ごとに配置。檀信徒の皆様に一仏両祖の御教を視覚に訴える形に仕上げました。従来のB3サイズのほか、郵送に便利なA4サイズ(展開するとA3)の二種類を用意しております。

(いわき支部 福羽敦正 記)

## 県南

去る八月一日、泉崎村雲月寺様を会場に第五十七回緑陰禅の集いを開催いたしました。今回は感染症の再拡大に留意して、以前のような一泊二日の宿泊を伴う日程ではなく、日帰りで開催とさせていただきます。村内外の小学生ら二十名が、坐禅や交流を中心としたお寺の生活に参加しました。



参加した子供たちは皆、お寺で過ごす体験は初めてであり、慣れないことも多々ありましたが、皆で一日の生活を共にすることで、坐禅会が終わる頃には姿勢を正して二十分近くの坐禅にも集中して取り組むことが出来るようになっていきました。参加した子供たちにとっては、この体験を通して、自己を見つめ直す良いきっかけにもなったように感じます。

また、子供たちの交流を目的として、だるまの絵付けや数珠作り、レクリエーションも実施し、新たな横のつながりが生まれる時間ともなり、子供たちのたくさん笑顔が見られ一夏の思い出作りにもなったことと思います。



(県南支部 長谷川俊隆 記)

## 会津

会津支部では四月二十四日に定例会を行いました。この定例会で役員改選を行い新執行部になりました。定例会の議題は、カレンダー委員会の報告や、震災の寄付金について、決算書の確認等を行いました。また会津支部では会計監査を来年度から一人増やす体制を取るという方針を決めました。金額が大きい事や誤りを防ぐ為にこの体制に決定致しました。そしてこの定例会に於いて、佐藤泰典師と竹内正龍師の二名が会津支部を退会となりました。御二方には会津支部だけでなく、福島県青年会の役職等を多く勤めて頂きました。両名におかれましては、曹洞宗青年会の発展に多大なる尽力をして頂きました。新執行部並びに会員一同は、更なる発展の為に両名のご活躍に報いられるように精一杯一丸となって努めていきたいと思っております。誠にありがとうございました。



(会津支部 新保宗嗣 記)

## 曹洞宗福島県青年会 「令和7年 禅の暦」 カレンダーのご紹介

令和7年「禅の暦」はテーマを『詠讃歌のこころ』とし、詠讃歌の歌詞カレンダーを制作いたしました。日常生活の中で当たり前に使われている暦という媒体を活用し、より身近に梅花流詠讃歌の魅力を感じていただける内容となっています。檀信徒の皆さまへの年末年始の贈り物などにお使いください。



B3サイズ  
従来版/B3版

全頁(8枚)  
フルカラー印刷  
タテ 53cm ×  
ヨコ 38cm



A4サイズ  
新規格/A4版

郵送に便利な  
サイズです。



〈最終ページ〉

紙面に掲載された二次元バーコードを読み込むことで、福島県の梅花講師皆さまに奉詠いただいた梅花流詠讃歌の動画を視聴することができます。



※動画は  
令和7年1月より  
公開予定です



〈中綴じ仕様〉

全頁(16頁)  
フルカラー印刷  
タテ 46cm × ヨコ 29.7cm  
(名入れなしは タテ 42cm × ヨコ 29.7cm)

《B3版 A4版ともに》

《一部》250円

山号・寺号・住所・電話番号等  
をお入れいたします。

名入れ注文  
受け賜ります

2通りのサイズをお選びいただけます

### お申し込み要項

- ご注文は10部単位で、送料は一律1,000円です。
- 名入れ注文は50部以上、一律一種10,000円の別料金にて受け賜ります。自筆など指定原稿での名入れも可能です。
- 電話でのご注文は下記連絡先までご連絡ください。後日改めてパンフレットに申込用のFAX用紙及びハガキを同封してお送りいたします。申込専用のFAXまたはハガキでお申し込みください。また、曹洞宗福島県青年会公式ホームページからもご注文いただけます。ご注文フォームから必要事項を入力いただき、送信してください。

【お問合せ先】

株式会社 青葉堂印刷内 カレンダー事務局 (担当: 大竹・飯澤)

〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1-808-22

TEL 050 (3386) 3610 FAX 0238 (29) 1238 e-mail soufukusei@aobado.co.jp

※曹洞宗福島県青年会は、(株)青葉堂印刷に受注・発送業務を委託しております。

### お申込フォーム

(ホームページより)

▶QRコードからも  
アクセスできます



<https://soufukusei.jp/calendar.php>

※納期の希望がある場合は、お早めにお申し込みください。部数に限りがあるため、お申し込みを締め切る場合がございます。予めご了承ください。

## 能登町萬福寺ボランティア報告



去る五月十四日に石川県能登町を訪問し寺院復旧ボランティア活動に従事しました。お伺いした町内東部にある萬福寺様は、この度の能登半島地震にて境内各所が大きく被災しており、一見すると無傷のように見える本堂も半壊以上の認定を受けています。被災から四ヶ月以上が経過していましたが、当寺にボランティアが入るのは今回が初めてのことでした。

当会が能登半島の被災地に入るのは二月の炊き出し活動に続き二度目となり、福島県内各地より会員九名が参加。現場では二班に分かれ、開山堂及び位牌堂内の片付けと大般若経本を一冊ずつ確認し、汚れを丁寧に除去し作業を行いました。散乱した堂内すべての大小さまざまな位牌は汚れを払いいったん堂外へ。空間を隅々まで清めた後に元へ戻し、その際、位牌の前に落下防止のための紐を張り巡らしました。一方、屋外では、大般若経本を一冊ずつ目視し、カビや汚れを取り除いては乾かすという根気のいる作業を行い、それでも未了となった残りの作業は次に入ると他県の青年会へと引き継ぐこととし現地を後にしました。

(県北支部 佐藤正乗 記)



## 山形豪雨災害ボランティア活動



令和六年七月二十五日から梅雨前線や湿った空気の影響で、秋田県と山形県で大雨となり、尊い人命が失われ、多くの方々が避難を余儀なくされています。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。当会では令和六年八月二十日と二十二日の二日間、山形県戸沢村において支援活動を実施しました。両日共に会員四名が参加し、災害ボランティアセンターを通じて同村蔵岡地区での活動に従事しました。当地区は最上川の本流が氾濫し、集落全体が浸水いたしました。場所によっては住宅の二階にまで達したところもございます。二十日は浸水した住宅からの家財等の運び出しと泥の撤去、二十二日は浸水した土のう袋の回収を行いました。水を含んだ家財や泥は大変重く、三十度近い気温の中での過酷な作業でしたが、戸沢村災害ボランティアセンタースタッフの皆様の手厚いサポートのおかげもあり怪我や事故もなく終えることが出来ました。

(副会長 秋山真宏 記)



## 令和6年能登半島地震募金箱設置のお願い

令和6年1月1日夕方。能登半島を中心とする強い地震が襲いました。最大震度は7、その後も震度5以上の強い揺れが何度も何度も繰り返し発生し、總持寺祖院を始め各地に甚大な被害を齎しました。あの恐怖の1日から早9か月。復興への道程は未だ遠く、険しい状況が続いております。

現在曹洞宗福島県青年会では、県内各ご寺院様方のご協力をいただき、被災された寺院の復興に寄与することを目的とした募金活動を行っております。お寄せいただいた浄財は青年会より大本山總持寺及び曹洞宗宗務庁を経由する形で總持寺祖院を始めとする被災されたご寺院様方へ届けられる予定です。

告諭の中にも示される同事という言葉。被災直後の悲しみ、復興の最中の苦しみを知っている福島県だからこそできる行いでもございます。被災された多くの方々が一日も早い安心を得られるよう、引き続き募金箱の設置及び募金活動にご協力をお願いいたします。

